

# 新聞会

休眠状態からウェブに活路を見出して見事再生！



## 顧問

山崎 瑞紀(社会メディア学科 准教授)

## 学生責任者

枝迫 雄大(環境創生学科 2年)

## 部員数

28名(男子部員21名、女子部員7名)

## 主な活動

4月 入学式取材、花見、新歓

5月 体育祭取材

6月 横浜祭取材

7月 取材日帰り旅行

9月 合宿

10月 大学と保護者との連絡会取材

11月 世田谷祭・等々力祭取材

12月 追い出し

1月 新年会

3月 四送会、学位授与式取材

## まず8人のオタクが集って会を再始動

大学の広報的な役割も担う大学公認の特殊団体として、他の課外活動団体とは区別されている都市大の新聞会。他大学の新聞会同様に歴史も古く、1954年から新聞(旧武蔵工大学生新聞)を発行してきました。しかし最近では活動が停滞し、2017年の段階ではほぼ休眠状態となっていました。

それを救ったのが、枝迫雄大君(環境創生学科2年・部長)率いる“新生”新聞会でした。「じつは僕は外部のメディア系サークルに所属してまして、その団体の活動の一環として、一年生の9月頃、横浜キャンパスの学生支援センターに取材協力をお願いに立ち寄ったときに、担当職員の方から“メディアに興味があるなら、都市大の新聞会をなんとかしてみませんか?”とお話をいただきました。新聞会ではどんなことができるかを伺うと、大学の広報的な記事のほか、一定の基準を満たせば、自分たちの興味のある記事をどんどん載せてもよいとのことでしたので、俄然興味が湧いたんです」(枝迫君)

新聞会を再生させるために枝迫君がまず考えたのが、新聞の形式を“紙”からウェブサイト主体に移すことでした。紙として発行する場合は時間も労力もかかり、学業が忙しい自分たちが速報性ある記事を載せることは困難。また配布先も学内に限られてしまうため、作成した記事をより広範囲の方に読んでもらうためにもウェブがベストと考えたようです。

そんな考えに賛同してくれるメンバーを人づてに探し始め、秋には枝迫君を含む8名のメンバーが揃いました。「メディアに興味があるだけでなく、何か特定の分野に造詣の深い人を中心に声をかけました。そういう人が自分の好きなことを発信していったら面白いと思ったんです。そこには、各分野の専門家が取材執筆している既存のネットメディアに対する憧れもありました。それでウェブサイト作りに詳しい人はもちろん、カメラや写真に興味のある人、鳥の生態を研究している人、将来は山に入ってマタギになる夢を持っている人……と、様々な分野にわたる8人のオタクが集まったんです」(枝迫君)



執筆作業はすべてオンライン。PC、カメラ、プリンタ等、活動に関わる設備も充実しています



ラジオ局J-WAVEのサービス、「Team J-WAVE」にオフィスとして登録。その一環として会の活動について、実際にラジオ番組へ出演して、発信



都市大TAPプログラムに参加した際、オーストラリアのYANCHEP SUN CITY社へ取材に伺いました





抜群の行動力で新聞会再生の陣頭指揮を取った枝迫雄大君。TAP(東京都市大学オーストラリアプログラム)に参加し際のレポートが好評。



メディアの仕事に関わりたから、勉強のつもりで入会したという暮井なつみさん(社会メディア学科1年)。記事を書くことの難しさを実感。



井上雄太君もメディアの仕事に就くのが夢。鉄道写真を撮るのが趣味で、腕前もかなりのもの。渾身の北海道レポート、ぜひHPでご覧ください。



ウェブ開発のオタクとして招聘された豊田直哉君は会の頭脳。同会に入ること、外部の多くのひととの接点が得られるのがメリットと言います。



古山諒君は子供の頃から鳥が大好きで、大学でも研究対象に。新聞会の肩書きがあれば、他大学の先生の話も聞けると考え入会を決意しました。



卒業生たちの現状追跡のほか、幾つかの食レポ企画を温めているという矢萩涼君(環境創生学科1年)。彼もメディアの仕事に興味があるそう。



新聞会のホームページ  
<https://tcuprs.com>



伊豆での研修。伊豆急行を中心に、五島慶太に関するポイントを巡りました



伊豆の風情ある街並みもしっかり記録。町の人に「都市大から来ました」と伝えるととても喜ばれました



## 手探り状態ながらプロ顔負けのウェブ新聞を配信

こうして彼らは2018年3月から本格的に「東京都市大学新聞」をウェブで始動。「学内総合」「特集」「イベント」「課外活動」「国際関連」といった多彩なカテゴリで記事をアップしています。ちなみに、見やすく綺麗なサイトデザインは豊田直哉君(環境マネジメント学科2年・副部長)が中心となって行いました。「枝迫君に誘われて参加しました。僕はウェブ開発が多少でき、セキュリティ関連もCTF(セキュリティの大会)に出場するなど独学で勉強してきたので、そのスキルが役に立つと思われたのでしょう。僕自身、大学内で自分なりにアクティブに活動できる課外活動を探していたので、ちょうど良かったです。このウェブサイトが学生と学外を結ぶプラットフォームになればと思っています」(豊田君)

彼らのウェブサイトは学内外での評判も上々。かなり順調に再スタートしたかのように思えますが、会員たちによればまだまだ課題は多いようです。

「一旦休眠状態だったため、僕らには取材の仕方や原稿の書き方を教えてくれる先輩がいないんです。だからひとつの記事をアップするまでに時間がかかってしまう。一度勉強会みたいなことをしたほうがいいかもしれないですね」(古山諒君・環境創生学科2年)。「新聞であることにこだわるあまり、ちょっと硬めな記事が多い気がします。実際会員たちから、もう少し気軽に読める記事があってもいいのではという声も上がっています。硬軟のバランスをどうしていくか、今の悩みどころですね」(枝迫君)

今後は枝迫君が当初目指した専門性の高い記者による記事も徐々に増える予定とのこと。実際取材時には、鉄道好きの井上雄太君(社会メディア学科1年)が8月末から9月にかけて北海道の鉄道事情を取材した記事がそろそろアップされるタイミングでした。

「取材中、9月6日の北海道胆振東部地震に遭遇しました。新聞会のツイッターでも現地の被災情報を伝えたのですが、災害時のメディアのあり方を考えるいい機会になりました。最近その体験を絡めた記事をようやく書き上げ、今は校正している段階です」(井上君)

なお、他大学の新聞会はいまだ紙が主体で、ウェブに本格的に軸足を移したところは少数。ひょっとして彼らの活動は、大学の新聞会のあり方に変革を起こすかもしれません。大いなる可能性を秘めた彼らの活動から目が離せません。



新入生歓迎会は色々な話題で盛り上がりしました

YAHOO! 本社で開催された、神奈川にある大学のメディア系ゼミが集まる「メディアキャンプ」にも参加。メディアの役割や、その心構えまで、その専門へ進む学生たちとともに学びました



世田谷祭にて株式会社コイワイのブースへ取材。新時代の金属加工についてその道のプロからお話を聞きすることができました